

12 上部尿路結石に対する Medical Expulsive Therapy としての 漢方薬および ウラジログシエキスの 有効性の比較検討

長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科

森 慎太郎、松尾 朋博、柿田 聖太、本多 弘幸、
荒木 杏平、光成 健輔、大庭 康司郎、望月 保志、
今村 亮一

【背景】

長径10mm未満の上部尿路結石に対しては、保存的治療 (Medical Expulsive Therapy, MET) が優先されることが多く、自然排出がない場合に積極的治療を検討する。しかし、保存的治療中に尿路閉塞に伴い水腎症が増悪すると、腎盂腎炎や腎不全を引き起こし、患者の生命を脅かすリスクがある。そのため、保存的治療を選択する際には、より効果的に排石促進が期待できる薬剤の使用が望まれる。本邦では近年METとして α 1遮断薬が使用可能になってきたものの、これまで結石の自然排出を目的として猪苓湯やウラジログシエキスが主として使用されてきた。しかし、両薬剤の有効性を直接比較した報告はこれまでになく、その効果についてのエビデンスが大いに不足しているのが現状である。

そこで本研究では、上部尿路結石の保存的治療において、より高い排出促進効果を持つ薬剤を検討するために、猪苓湯とウラジログシエキスの有効性を比較した。

【対象・方法】

2024年1月から12月、我々の関連病院において上部尿路結石と診断され、その長径が10mm未満であり、かつ、猪苓湯(TJ-40)またはウラジログシエキスを処方された11例を対象とした。猪苓湯投与群とウラジログシエキス投与群の2群に分け、自然排石率および排石までに要した期間について後方視的に比較検討した。

【結果】

観察期間の中央値は33日 (四分位範囲[IQR]:15-90)であった。猪苓湯群 (6例 [全て男性]) の年齢の中央値は58.0歳 (IQR:48.3-65.5)、ウラジログシエキス群 (5例 [男性3例]) の年齢の中央値は58.0歳 (IQR:53.0-64.0)であった。猪苓湯群の1例 (16.7%) のみ腎結石であったのに対して、ウラジログシエキス群では全例尿管結石であった。また、結石の長径の中央値は、猪苓湯群で6.5 mm (IQR:4.1-7.8)、ウラジログシエキス群で6.0 mm (IQR:5.0-6.8) と猪苓湯群で大きかった。猪苓湯群で4例 (66.7%)、ウラジログシエキス群で4例 (80%) が自然排石し、両群とも高い排石率であった。自然排石が得られた症例に限り、排石までの期間を検討すると、中央値は猪苓湯群で8日 (IQR:6.3-18.0)、ウラジログシエキス群で29日 (IQR:23.3-69.3) と猪苓湯群の方が短期間で排石していた。

【結論】

今回観察した症例においては、両薬剤の自然排石率はいずれも高く満足できる結果であった一方で、猪苓湯の方が排石に至る期間が短かった。